

ものづくり技術委員会設置趣意書

ものづくり技術委員会 設置準備委員会

1. 設立の背景と目的

現在まで、日本の産業の根幹を支えているものは製造業＝「ものづくり」であった。代表的分野として、鉄鋼・非鉄金属、石油・化学・素材産業、食品・医薬品、自動車・機械、電気・電子・半導体、製紙があげられるが、すべてのものづくり業に、不可欠かつ重要なコンポーネントは、いうまでもなく、生産に関わる電気／電機／電子機器（生産設備）である。

昨今、ユーザーニーズの多様化と、製品安定供給の要求から、生産設備には、よりいっそうの、高性能化、高信頼性、診断技術の確立が求められるようになってきた。

それに並行し、分野、業種、用途に応じ、生産設備は多種多様に発展し、電気学会においても、複数の技術委員会が設立されるに至り、これまで成果を上げてきた背景がある。

こうした状況における問題のひとつは、各技術分野が、個々に発展し、分野間の技術連携が薄れていくことがあげられる。異なる業種／分野においても、ものづくりに伴う共通の技術要素や技術課題が存在しており、技術活動を充実・活発化するためには、「ものづくり」という共通観点から、委員会どうしのより密度のたかい協力・協業が求められているのである。

一方で、確立した既存の技術分野を扱いながらも、われわれは、未来へ向けた、新たな技術分野へも目を向けていかねばならない。

以上の状況をかながみ、主に鉄鋼業を対象に活動している金属産業技術委員会（MID）と、その他一般産業を対象とする一般産業技術委員会（GID）を統合し、それを核に、新たな「ものづくり技術委員会」の設立を目指すものである。「ものづくり技術委員会」は、上記2委員会に加え、現在、産業電力電気応用技術委員会に置かれている、「工場電気設備雷害対策調査専門委員会」を加え、「ものづくり」の観点から、より発展的な「プラスアルファ」の創出を目指すこととする。

2. 技術委員会としての調査活動

当面は、これまでの金属産業技術委員会、一般産業技術委員会、産業電力電気応用技術委員会を実施してきた研究会や調査専門委員会活動を引き継ぐ形で活動を始める。ただし、単なる統合へとどまることなく、未来に目を向けた、既存概念にとらわれない新たなテーマへの取組みを模索してゆく。

3. 技術委員会の研究調査対象技術分野

- (1) 広く、ものづくりに関わる産業における、電気／電機／電子機器（生産設備）の技術分野
- (2) 上記に関連／付随する、新技術分野

4. 技術委員会としての活動スケジュール

平成 23 年（2011 年） 1 月 本委員会設立

5. 委員会の構成（技術委員会の構成員、職名別の五十音順に配列）

職名	氏名	所属	会員種別
委員長	南方 英明	千葉工業大学	会員
副委員長	橋爪 健次	新日本製鐵	会員
副委員長	山田 賢治	東芝三菱電機産業システム	会員
1号委員	居倉 弥	安川電機	会員
1号委員	出羽 竹彦	山武	会員
1号委員	伊藤 伸一	富士電機システムズ	会員
1号委員	植主 雅史	三菱電機	会員
1号委員	宇佐美 照夫	京都学園大学	会員
1号委員	岡庭 文彦	東芝	非会員

1号委員	西郷 宏治	富士電機システムズ	会員
1号委員	齊藤 正義	日本工営	会員
1号委員	坂本 匡	東芝三菱電機産業システム	会員
1号委員	佐々木 信博	明電舎	会員
1号委員	杉野 隆	日新製鋼	会員
1号委員	添木 真也	王子製紙	非会員
1号委員	千野 俊彦	JFEスチール(株)	会員
1号委員	永野 浩一	日立製作所	非会員
1号委員	西村 誠介	日本工業大学	会員
1号委員	服部 哲	日立製作所	非会員
1号委員	林 和博	三菱地所設計	会員
1号委員	松浦 徹	神戸製鋼所	会員
1号委員	峯尾 佳幸	三菱電機エンジニアリング	会員
1号委員	森 泰親	首都大学東京	会員
1号委員	柳多 徹郎	住友金属工業	会員
1号委員	渡辺 伸司	横河電機	会員
オブザーバ	橋本 学	中京大学	会員
オブザーバ	久保田 直行	首都大学東京	会員
2号委員	岡本 健	東芝三菱電機産業システム	会員
2号委員	富永 英生	トクヤマ	会員
2号委員	坂内 正明	三重大学	会員
幹事	大柏 芳弘	東芝三菱電機産業システム	会員
幹事	副島 久信	新日本製鐵	会員
幹事	中込 暢彦	東芝三菱電機産業システム	非会員
幹事補佐	森 武彦	三菱電機	非会員
幹事補佐	空尾 謙嗣	新日本製鐵	会員

6. 技術委員会設置後の活動予定

委員会・見学会 4回/年、研究会 4回、調査専門委員会 3件